

選挙につけたすとしたら

都城・北諸県支会代表 二見 水綺

私は、選挙権が18歳にくり上がったというニュースを目にした時、大人になった気持ちになり、投票すれば大人の仲間入りだと、早く投票したい思いが溢れ、まるで小さい子が初めてお小遣いをもらった気持ちでした。

そして、あっと言う間に18歳の選挙投票当日を迎え、一緒に行こうと約束していた母に置いていかれ、緊張しながら投票したことを覚えています。

その後、人生2回目の投票の時期が来た際、ある言葉が聞こえました。

「若者のみなさま！ぜひ、選挙に行ってください！」

「若者のみなさまの清き一票が必要です！ぜひ！投票をお願いします！」

「若者のみなさまの投票があれば、結果は変わる！」

よく聞くアナウンスですが、なぜ、私たち（主に18歳以上22歳未満）は選挙に興味があるのに、なぜ投票にいかないのだろう、と、不思議に思いました。

そこで、私は同年代の友人が選挙になかなか行かなかったのも、理由を尋ねると、友人は投票所にわざわざ出向くのが億劫だ、どうして家から出ないと行けないのか。と話していました。

考えてみると、今の時代、新型コロナウイルスの影響で、変わったことがたくさんあります。

出歩いて、自分で直接買い物をする方法から、ネット販売に変わったこと、現金から電子決済に変わったこと、面接や授業がオンラインとなったこと。一見すると学校やお金を出す手間が省けてメリットのような気もしますが、学生時代のオンライン配信は友人に会えず、ビデオ電話やLINEのみの会話で、当時修学旅行前で結局行けなかった後輩達も、つらい青春時代を過ごしたことを覚えています。

ですが、明るく考えたら、授業で見逃してしまった箇所や、聞き取れなかったときは巻き戻しや友人と電話しながら普段では味わえない青春がありました。

その経験で、メリットを活かすために、いっそのこと選挙もオンライン化にすれば家で気軽にできそう！と思いつきました。

選挙もオンライン化することで自分の携帯から、時間帯も気にせず隙間時間で気軽に投票でき、このコロナ禍での感染対策等も考慮できるのではと考えました。

オンライン化にすると集計もパソコンですぐできますし、人員削減でき、休日が増えるのではないのでしょうか。

また、もう1つの案は、スピーチをその地方独特の方言などに変換し、若者か

ら注目を浴びることです。

自分をアピールしながらも、故郷の方言を混ぜることでその地方の人には親しみも持てますし、共感を得られると考えております。さらに、今減りつつある方言を次の世代にも繋げるきっかけになると思います。

最後に、私たちは生まれた瞬間から大人になるにつれて、詳しい言葉や難しい言葉を学んでいきますが、それでも完璧に綺麗な言葉を使うことは難しいです。

そんな私たちに難しい言葉で伝えるより、少し言葉をくずして、親しみのある言葉の方がすごく伝わりやすいと、私は感じます。

また、今の時代SNSが圧倒的に若者に見てもらえる機会が増えています。

実際ここ数年で選挙立候補の方々はツイッターやフェイスブックでアピールするなどSNSを使用した選挙活動も年々増えてきているように感じます。

小学生も今は自分の携帯を持つ時代となりました。

そんな私達に選挙をより身近に感じるために、選挙につけたすなら、オンライン化、もしくは、方言だと思います。